

はしがき

みなさんは、(1a-c) に示すように、expect は目的語に to 不定詞句をとり、enjoy は動名詞句をとり、forget はその両方をとると習ってきたことでしょうか (* は、それが付された表現が不適格であることを示します)。そして、他の多くの動詞についても、どの動詞はどのタイプの目的語をとるかを覚えてきたことでしょうか。

- (1) a. He expects {**to work** / ***working**} here.
 b. He enjoys {**working** / ***to work**} here.
 c. I forgot {**to check** / **checking**} my e-mail after supper.

でも、個々に覚えなくても、それを決定づけている規則がないのでしょうか。

次に、みなさんをご存知のことと思いますが、他動詞として一般に用いられる動詞が前置詞を伴って自動詞として用いられたいり ((2a, b) 参照)、逆に、自動詞として一般に用いられる動詞が直接目的語をとり、他動詞として用いられることがあります ((3a, b) 参照)。

- (2) a. The cat **scratched** the door.
 b. The cat **scratched at** the door.
 (3) a. He **walked on** the Appalachian Trail.
 b. He **walked** the Appalachian Trail.

(a) と (b) では、どのような意味の違いがあるのでしょうか。両

者は一体どのように使い分けられているのでしょうか。

さらに、他動詞として一般に用いられる動詞が、その目的語を主語にして、次のように自動詞として用いられることがあります。

- (4) a. This car **drives** easily. (cf. You can **drive** this car easily.)
 b. This house will **sell** easily.

(4a, b) は、「この車は簡単に運転できる」、「この家は簡単に売れるだろう」という意味で、まったく適格な文ですが、しかし次のように言うことはできません。

- (5) a. *English **learns** easily. (cf. You can **learn** English easily.)
 b. *This house will **buy** easily.

(5a, b) の意図する意味は、「英語は簡単に学べる」、「この家は簡単に買えるだろう」で、(4a, b) と同じように思えるのに、どうして (5a, b) は不適格なのでしょう。 (4a, b) のような文はどのように使われるのでしょうか。

本書は、このような英語の動詞に関する疑問を取り上げ、その謎を解き明かします。みなさんはきっと、そこに整然とした規則があることを理解され、言葉の体系的な仕組みに驚かれることでしょう。

本書は 10 章からなります。第 1 章では、動詞 help を取り上げます。Help は次のように、to をとる場合ととらない場合で意味が異なると言われていますが (Bolinger (1974), Dixon (1991, 2005) 等)、この主張が正しいかどうかを検討します。

- (6) a. John helped me move the sofa.
 b. John helped me **to** move the sofa.

第2章では、meet, encounter, run into (〈人に〉偶然出会う)、marry (... と結婚する)、date (... とデートする)、resemble (... に似ている) のような動詞について考えます。これらの動詞は、たとえば John married Mary. は Mary married John. ですから、「相互動詞」(reciprocal verbs) と呼ばれますが、興味深いことに、これらの動詞は (7b) に示すように受身文になりません。また、たとえば、ジョンと彼の高校のクラスメートが結婚した場合、ジョンを主語にすることは可能ですが、彼の高校のクラスメートを主語にすることはできません。

- (7) a. John **married** Mary just a year ago.
 b. *Mary **was married** by John just a year ago.
 (8) a. John **married** his high school classmate last month.
 b. *John's high school classmate **married** him last month.

第2章では、このような相互動詞の特異性を観察し、相互動詞がなぜこのような振る舞いをするかを明らかにします。

第3章から第5章までは、冒頭で述べた3つの問題をそれぞれ考察します。第3章では、(1a-c) で述べた疑問に答え、英語学習者が個々に覚えなくても、どの動詞はどのタイプの目的語をとるかを判定できる、極めて簡単に効果的な推定法を提示します。第4章では、(2a, b)、(3a, b) に示したように、ひとつの同じ動詞が他動詞としても、また、前置詞を伴って自動詞としても用いられる場合に、どのような意味の違いがあるかを明らかにします。第5章では、(4a, b)、(5a, b) に示したように、他動詞として一

般に用いられる動詞が、その目的語を主語にして自動詞として用いられる構文は、どのような場合に適格となるかを考察します。

第6章から第8章の3章では、come と go がどのように使い分けられているかを明らかにしたいと思います。従来、両者は、「移動時に話し手または聞き手がいる（いた／いることになる）所への移動には come を用い、それ以外の所への移動には go を用いる」(Swan (2005: 109-110)) のように使い分けられると言われてきましたが、実際はもっと複雑であることを多くの例で示します。そして、両者の使用をコントロールしている規則を探りたいと思います。

第9章では、命令文の不思議に迫ります。(9a, b) の命令文は不適格ですが、同じ動詞でも (10a, b) だと適格です。

- (9) a. ***Know** the answer.
 b. ***Love** this fruit.
- (10) a. **Know** that I will always be there for you.
 b. **Love** me tender, Love me sweet. (“Love Me Tender” の歌の一節)

この章では、命令文がどのような場合に適格となるかを明らかにし、受身形の命令文や進行形、完了形の命令文についても考察します。

第10章では、動詞 promise がとる構文パターンについて考察します。従来、この動詞は「promise + O〈人〉 + to do」(e.g. John **promised** Mary to visit Paris.) の構文パターンをとると言われてきましたが、このパターンを容認しない母語話者が多くいます。本章ではその現状を報告し、この構文パターンに関する近年の辞書に見られる記述を検討します。

本書ではさらに4つのコラムを設けました。コラム①では、食事などの際に「もう結構です」という辞退を表わす英語表現“*I'm good.*”について紹介します。この表現は、一体いつ頃から使われ始めたのか、また、くだけた家族の間でのみ使われるのか、そして疑問文としても使われるのかなどの疑問に答えます。コラム②では、新聞や雑誌の記事の見出しなどで、普通に思い浮かぶ意味とは別の解釈が可能で、思わず笑いを引き起こすような例を取り上げます。コラム③では、アメリカ英語とイギリス英語で、ある物を異なる名詞で表現する場合や、ある動作を異なる動詞で表現する場合を取り上げます。コラム④では、第6-8章で考察する *come* と *go* の使い分けに関連して、*Would you like to {come / go} with me?* のような文でどちらが用いられるかという問題を取り上げます。参考にしていただければ幸いです。

この本を書くにあたり、多くの方々にお世話になりました。特に Karen Courtenay, Nan Decker のお二人からは、本書の多くの英語表現に関して有益な指摘をたくさんいただきました。また、お二人に加え、Phillip Brown, Andrew Fitzsimons, Alison Stewart の3氏からも本書の例文に関して貴重な指摘をいただきました。学習院大学の真野泰先生には、本書のいくつかの章やコラムの内容について議論していただき、有益な指摘をいただきました。さらに、くろしお出版の岡野秀夫氏と荻原典子氏には、本書の原稿や校正刷りを何度も通読していただき、多くの有益な助言をいただきました。ここに記して感謝します。

2016年 初冬

著者

目次

はしがき *i*

第1章

Help someone VP と Help someone to VP は
意味が違うのか? *1*

- 手助けの仕方が違う? *1*
- 母語話者の意見 *3*
- 実例の観察 *5*
- 結び *8*

第2章

相互動詞の特異性 *11*

- Meet や marry の不思議 *11*
- 相互動詞はなぜ受身にならないか? *13*
- 話し手はどの立場の視点を取りやすいか? *18*
- 「談話法規則違反のペナルティー」 *23*
- 相互動詞としての resemble *26*
- Resemble の特異性と「類似の基準」 *26*
- Divorce も相互動詞か? *30*
- 結び *31*

コラム① “I’m Good.” *35*

第3章

He tried to open the door. と He tried opening the door.の違いは何か? —不定詞句をとる動詞、動名詞句をとる動詞— 51

- 不定詞句(to-VP)と動名詞句(VP-ing)のどちらをとる? 51
- To不定詞句をとる動詞の意味的特徴 55
- 「To不定詞句をとる動詞」のリスト 57
- 過去指向解釈の主動詞 60
- 過去指向解釈のない現在指向解釈動詞 62
- To不定詞句と動名詞句の両方をとる動詞
— 意味の違いがあるもの 66
- To不定詞句と動名詞句の両方をとる動詞
— 意味の違いがないもの 70
- 主動詞の意味に基づく動詞目的語タイプの推測方法 72
- 結び 75
- [補節]
- 動名詞句の意味上の主語が主動詞の主語と異なる場合 76

第4章

The cat scratched the door. と The cat scratched at the door.の違いは何か? —他動詞構文と動能構文— 79

- Hit, cut, kick は自動詞でも使う? 79
- 動能構文のさらなる例 82
- これまでの説明とその問題点(1)
— 行為が成立したかどうか 83
- 行為が成立したかどうかは何によって決まる? 86
- これまでの説明とその問題点(2)
— どんな動詞が用いられるか 87
- (15)と(16)-(19)は何が違っているか? 90
- これまでの説明とその問題点(3)— 撮取動詞 91
- 他動詞構文と動能構文の意味の違い 93
- 動能構文の「繰り返す」の意味はどこから生じるか? 99
- 動能構文以外の前置詞の有無による意味の違い 100
- 日本語の場合 103
- 結び 105

コラム② What's My Column About? It's About 800 Words. 107

第5章

This house will sell easily. と言って、
 *This house will buy easily. と言えないのはなぜか？
 —中間構文の適格性— 119

- 他動詞の目的語が主語に？ 119
- The door opened. や The vase broke. でも同じ？ 123
- (9b)–(11b)の自動詞文と(1a-c)の中間構文は
どこが違うか？ 126
- 中間構文は何を表わそうとするのか？ 129
- 母語話者が用いた中間構文の実例から 132
- 中間構文に課される「特性制約」 136
- さらなる例の考察 140
- 結び 146

コラム③ アメリカ英語とイギリス英語の違い 149

第6章

Come と Go はどのように使われるか？(1)
 —ふたつの重要概念— 159

- これまでの説明 159
- 実際はもっと複雑 162
- 重要概念(1)—「ホームベース」 164
- 重要概念(2)—「視点」 168

第7章

Come と Go はどのように使われるか？(2)
 —「ホームベース制約」— 173

- ホームベース制約 173
- 「ホームベース制約」で説明できるさらなる例 181

第8章

Come と Go はどのように使われるか? (3)

—視点制約はホームベース制約にどう関わるか— 187

- 同じホームベースへの移動なのにどうして適格性が違う? 187
- 「視点制約」 190
- 疑問文では話し手が聞き手の視点をとる 195
- さらなる例文の説明 196
- 結び 198

コラム④ Would you like to {come / go} with me? はどちらを使う? 200

第9章

命令文にはどんな動詞句が現われるか? 207

- 同じ命令文なのになぜ適格性が違う? 207
- 「自己制御可能な」(self-controllable)動詞句 208
- 受身形の命令文 213
- 進行形と完了形の命令文 217
- 結び 221

第10章

Tom promised Ann to do it. は
母語話者誰もが適格と認める構文パターンか? 223

- 「Promise+O〈人〉+to do」に関する従来の説明 223
- 「Promise+O〈人〉+to do」を認めない母語話者もいる 224
- 「Promise+O〈人〉+to do」に関する近年の記述 227
- 結び 230

付記・参考文献 232

Help someone VP と Help someone to VP は 意味が違うのか？

第1章

● 手助けの仕方が違う？

動詞 help が、「〈人が〉～するのを手伝う」という意味で用いられる場合、次のように、目的語の後ろ（動詞句（VP=Verb Phrase）の前）に to をとってとらなくてもいいと言われていています。

- (1) a. John helped me move the sofa.
b. John helped me **to** move the sofa.

それでは、(1a) と (1b) の間に意味の違いはあるのでしょうか。

Bolinger (1974: 75) は次の2文を示し（太字は筆者）、help が to をとらない場合は直接的な手助けを表わし、一方、to をとる場合は間接的な手助けを表わし、両者はその表わす意味が異なると述べています。

- (2) a. He **helped me climb** the stairs **by propping me up with his shoulder**. (He climbed with me.)
「階段を上がる時彼はずっと肩で私を支えてくれた。(彼は一緒に上がってくれた。)」

相互動詞の特異性

第2章

● Meet や marry の不思議

Encourage や shoot, praise, love のような多くの他動詞が受身になるのに対し、meet, encounter (ともに「〈人に〉偶然出会う」)、marry (「…と結婚する」) は、次に示すように受身にはなりません。

- (1) a. John **encouraged** Mary in her studies.
b. Mary **was encouraged** by John in her studies.
- (2) a. John **met** Bill in Harvard Square today.
b. *Bill **was met** by John in Harvard Square today.
- (3) a. John **married** Mary just a year ago.
b. *Mary **was married** by John just a year ago.

Meet が上の意味の場合、受身にならないことは辞書にも記載されていますが、それではどうして受身にならないのでしょうか。(1b) が適格なのに、(2b), (3b) が不適格なのはなぜでしょうか(【付記1】参照)。

Meet や marry には、さらに興味深い特徴があります。次の例を見てください。

- (4) Mary had quite an experience at the party she went to last night.
a. A *New York Times* reporter **asked** her about her occupation.
b. *A *New York Times* reporter **met** her.

He tried to open the door. と He tried opening the door. の違いは何か?

第3章

— 不定詞句をとる動詞、動名詞句をとる動詞 —

● 不定詞句 (to-VP) と動名詞句 (VP-ing) のどちらをとる?

みなさんは高校生の頃から、次に示すように、expect, decide, agree, refuse のような動詞は、目的語に to 不定詞句をとるが動名詞句はとらず、enjoy, admit, finish, practice のような動詞は、逆に、目的語に動名詞句はとるが to 不定詞句はとらないと教わってきたと思います。

- (1) a. He expects {**to work** / ***working**} here.
 b. She decided {**to study** / ***studying**} abroad.
 c. The president agrees {**to talk** / ***talking**} to the workers.
 d. We refuse {**to answer** / ***answering**} any questions about the incident.
- (2) a. He enjoys {**working** / ***to work**} here.
 b. The student admitted {**cheating** / ***to cheat**} on the test.
 c. Did you finish {**doing** / ***to do**} your homework?
 d. I practice {**speaking** / ***to speak**} English for 30 minutes every day.

英英辞典や英和辞典には、それぞれの動詞が、(1a-d) のように to 不定詞句をとる動詞であるか、(2a-d) のように動名詞句をとる動詞であるか、指定がされています。また、文法書や参考書では、どの動詞が to 不定詞句をとり、どの動詞が動名詞句をと

The cat scratched the door. と The cat scratched at the door. の違いは何か?

第4章

— 他動詞構文と動能構文 —

● Hit, cut, kick は自動詞でも使う?

Hit, cut, kick のような動詞は、次の (a) 文のように、その直後に目的語をとる他動詞として用いられるのが一般的ですが、(b) 文のように、その直後に前置詞 **at** をとり、自動詞としても用いられることをみなさんをご存知でしょうか。

- (1) a. He hit me.
 b. He hit **at** me.
- (2) a. Mary cut the rope.
 b. Mary cut **at** the rope.
- (3) a. The boy kicked the ball.
 b. The boy kicked **at** the ball.

(1b), (2b), (3b) はまったく自然な英文で、(1)-(3) の (a) と (b) は、その意味が次のように違っています。

- (1') a. He hit me. (彼は私を殴った。)
 b. He hit **at** me. (彼は私に殴りかかった。)
- (2') a. Mary cut the rope. (メアリーはロープを切った。)
 b. Mary cut **at** the rope. (メアリーはロープを切りつけた。)
- (3') a. The boy kicked the ball. (少年はボールを蹴った。)
 b. The boy kicked **at** the ball. (少年はボールを目がけて足

This house will sell easily. と言えて、*This house will buy easily. と言えないのはなぜか?

第5章

— 中間構文の適格性 —

● 他動詞の目的語が主語に？

Drive, sell, read は、それぞれ「〈車などを〉運転する」(drive a car)、「…を売る」(sell this house)、「〈本・文字などを〉読む」(read his letter) のように、目的語をとる他動詞として用いられるのが一般的ですが、その目的語が主語になり、次のように自動詞として用いることもできます。

- (1) a. This car **drives** easily. (この車は簡単に運転できる)
- b. This house will **sell** easily. (この家は簡単に売れるだろう)
- c. His letter **reads** like a poem. (彼の手紙は詩のように読める)

(1a-c) のように、本来、他動詞の目的語、つまり、他動詞が表わす動作・行為を受ける対象物 (this car, this house, his letter) が主語になり、他動詞が自動詞述語として用いられる構文は、言語学で「中間構文」(middle construction) と呼ばれています (【付記1】参照)。みなさんも、(1a-c) のような文があることはご存知でしょう。

同様の例を見てみましょう。

- (2) a. This floor **waxes** easily. (この床はワックスがよくかかる)

Come と Go はどのように使われるか? (1)

第6章

— ふたつの重要概念 —

● これまでの説明

英語の動詞 come と go が、日本語のそれぞれ「来る」と「行く」に必ずしも対応していないことは、すでにみなさんもよくご存知だと思いますが、まず次の問題から考えてみましょう。

Come と go に関して、次の文ではどちらが用いられるでしょうか。

(1) [話し手たちはボストン在住]

Mother, my classmate Sue says that she and her family are {coming / going} to Spain this summer. Where are we {coming / going}?

(2) [上司が自分の部屋から部下に電話で]

A: Tom, would you please {come / go} to my room now?

B: OK. I'm {coming / going}.

正解は、(1) のふたつがともに going, 逆に (2AB) は、come, coming です。みなさん全問正解かと思われそうですが、(2B) で迷われた人もおられるかもしれません。その理由は、(1), (2) を日本語に直すと明らかです。

(1') お母さん、クラスメートのスーは、家族でこの夏スペインに{行く / *来る}んだって。私たちはどこへ{行

Come と Go はどのように使われるか？ (2)

第7章

— 「ホームベース制約」 —

● ホームベース制約

私たちは前章で、「ホームベース」という概念を提示し、come の到達点を「話し手」、あるいは「聞き手」とする従来の分析が不十分であり、これらの概念を「話し手のホームベース」、「聞き手のホームベース」に置き換える必要があることを示しました（前章の (5), (7) を参照）。このホームベースという概念をもとに、come と go の使用制約を規定すると、次のようになります。

- (1) **Come と go の使用に課されるホームベース制約（暫定的制約）：**
- a. （発話時あるいは移動者の到達時に）移動者の移動行為の到達点が、話し手・聞き手のホームベースであれば come, さもなくば go を用いる。
 - b. 第三者の移動行為の到達点が、話題の中心となる（＝話し手・書き手が視点を寄せる）別の第三者のホームベースであれば come, さもなくば go を用いる。

(1a) は、次の (2a) と (2b) の場合に come を、それ以外は go を用いると規定し、(1b) は、次の (2c) の場合に come を、それ以外は go を用いると規定していることとなります。

Come と Go はどのように使われるか？ (3)

第8章

— 視点制約はホームベース制約にどう関わるか —

● 同じホームベースへの移動なのに どうして適格性が違う？

私たちは前章と前々章で、come の到達点を「話し手」、あるいは「聞き手」とする従来の分析が不十分であり、これらの概念を「話し手のホームベース」、「聞き手のホームベース」に置き換える必要があることを説明し、次のふたつの場合（前章の (2a, b)）には come が用いられることを示しました。

- (1) a. 聞き手・第三者の移動 b. 話し手・第三者の移動



つまり、ホームベースへの移動であれば、それが話し手のホームベースであれ、聞き手のホームベースであれ、come が用いられると考えてきました。

この考えは、(1a) の「話し手のホームベースへの移動」では、次の例から分かるように、まったく問題がありません。

- (2) [話し手のホームベースへの移動]
a. My family and I are planning to make a trip to New York this summer. Will you {**come** / *go} to the city while we

命令文にはどんな動詞句 が現われるか？

第9章

● 同じ命令文なのになぜ適格性が違う？

命令文は (1a-c) のように、話し手が聞き手に何かをするよう指示、依頼、提案、アドバイス等を与える文型で、聞き手の You が一般に省略されて、動詞の原形が用いられます（【付記1】参照）。

- (1) a. Pass me the salt, please.
- b. Tell me the date when you go to Australia.
- c. Brush your teeth after every meal.

ただ、このような命令文が常に適格というわけではなく、次の命令文は不適格です。

- (2) a. *Know the answer.
- b. *Love this fruit.
- c. *Have a large amount of money.

それでは、know, love, have のような動詞は命令文には用いられないかということ、これらの動詞が用いられた次の命令文は、何の問題もない適格文です。

- (3) a. **Know** that I will always be there for you.

Tom promised Ann to do it. は母語話者誰もが適格と認める構文パターンか？

第10章

● 「Promise + O 〈人〉 + to do」に関する従来の説明

「生成文法」と呼ばれる文法理論のテキストでは、洋書、和書問わず、動詞の persuade と promise がとる次の構文パターンが示され、不定詞の意味上の主語が、主節の主語と目的語のどちらになるかが解説されてきました。

- (1) a. John **persuaded** Mary to visit Paris.
 b. John **promised** Mary to visit Paris.

(1a) では、ジョンがメアリーにパリを訪れるよう説得したため、to visit Paris の意味上の主語は主節の目的語 Mary ですが、(1b) では、ジョンがメアリーにパリを訪れると約束したため、to visit Paris の意味上の主語は主節の主語 John です。生成文法ではこのような違いから、persuade は「目的語コントロール動詞」、promise は「主語コントロール動詞」と呼ばれています。

Promise が persuade と共通して、(1) のような「O 〈人〉 + to do」の構文パターンをとるとするのは、定評のある Quirk et al. (1985) の文法書でも指摘されています。彼らは次の例をあげ、promise は、persuade, advise, ask, order, teach, tell, urge など多くの動詞とは異なり、不定詞の意味上の主語が、主節の目的語ではなく主語であるという点で、例外的であると述べています (p. 1216)。